

平成25年度 第2回大阪府立泉北高等学校学校協議会議事録

1 日時：平成25年11月6日（水） 11：15～13：00

2 会場：本校会議室

3 出席者 <委員>

伊藤 智博氏（大阪府立大学 教授）、中村 俊一氏（立志館ゼミナール 館長）、長谷 和子氏（泉北高校後援会 会長）、大坪登志美氏（泉北高校 PTA 会長）

4 挨拶 校長

- ・授業見学を通じて、本校の問題点を議論いただきご指摘いただければという目的があり、総合科学科と国際文化科両方の授業を見学していただきました。
- ・PDCF サイクルを意識して、授業アンケートなどを活用した個々の教員の振り返りを年度途中も行い、随時修正しながら目標の達成に向けて努力を重ねております。また、分掌及び教科でも進捗状況を点検し、資料にまとめさせていただきました。この時期に協議会委員の皆様からご意見ご助言を頂戴し年度末に向けて目標を達成できるようにしていきたい。

5 授業見学の感想

- ・外国人講師がいてうらやましく思った。映画を見て質問に応える活動が難しかった。授業ではプリントを活用しておられ、生徒には大変役に立つが教員の準備は大変だろう。また、教員の個人的な人生の体験談もよかった。
- ・教員の人生経験を話すことで、生徒が教員を信頼し、生徒も学習に引きつけられてよい。外国人講師の授業と日本人による英語の授業を見学してみて、コミュニケーションとしての英語と考えれば、ゆっくりでもよいから論理的に明確にわかりやすく話せる能力を伸ばせるように考えていけばよいのではないだろうかと感じた。先生方は工夫されてやっておられ、生徒も授業に集中していると感じた。
- ・みんな難しいことを勉強していると思った。教員自身の高校時代の話は、普通の授業よりも生徒のためになる話だったと思った。また、英語の授業を生徒はどのくらい理解しているのかなと思った。学年によって、先生方もゆっくり英語を話すなど工夫をされているのかと思った。
- ・3年生のクラスを見学したが、他の学年はどうなのだろうと思った。3年生はさすがに授業に集中しているなと思いました。

6 本年度の学校経営目標の進捗状況とその取り組みについて

①授業評価について（教頭より）

- ・大阪府が平成24年度より開始された授業力向上に向けた取り組みとして、本校では9項目におよぶ生徒のアンケートを中心に授業の評価を行っている。第1回授業アンケート分析結果より各先生方の評価がよく分かるような個人票を作成し、先生方に返却して現時点の課題を把握し改善に努めている。授業の予習復習に関するパーセンテージが低く、昨年度より本校の大きな課題となっている。また、2年生において全体的な数値が悪くなっていることが問題であると感じており、解決策を見つけることが課題であると考えている。英語の授業評価は最も高く、「工夫活用」という点において数学の評価がやや低い。社会、国語、理科では生徒の意見や要望を取り入れていないという評価があり、特に年配の先生方の授業にその傾向が見られる。実技科目は総じて評価が高い。

②平成25年度 取組内容及び自己評価について（教頭より）

- ・現段階での自己評価を資料で提示した。
- ・英語教育の充実では、現時点では、TOEIC Bridge の平均点が昨年と変わらない結果がでている。英検については、目標値には及んでいない。
- ・理数教育の充実では、実習を含めてよく取り組んでおり、賞を受賞するなど成果が上がっている。
- ・進路指導の充実は、学年の努力もあり、例年通りに進んでいる。
- ・開かれた学校作りでは、目標達成率も高く、保護者や中学生からの評価や関心も高い。
- ・生徒指導等に関しては、支援教育コーディネーターを中心に、相談室の整備や生徒の対応に取り組み、問題を抱えている生徒も学校生活を続けられている。遅刻の減少については、年度末にむけて引き続き取り組んでいく。
- ・全体の進捗状況としては、概ね計画通りに進んでいるといえる。

③SSHの取り組みについて

- ・サイエンスツアーも多数の生徒が希望し、第2回のサイエンスツアーも企画することになった。

④教科の取り組みについて

- ・資料をご覧いただき、概ね計画通り進んでいることが確認できる。

7 協議

（委員）数学は授業の内容から考えると、プリントを作成するのはなじまないところはあるかもしれない。授業アンケート項目の数値が低いのはあまり問題ないのではないかと思う。

（委員）第1回授業アンケートは教科ごとにまとめて傾向を把握する趣旨であると思われるが、教科科目の問題というよりも先生個人の資質を問うような、一人一人の結果を見ていく方がよいのではないかと思われる。項目を点数化して総合評価を行えば、個々の先生方の評価がはっきり分かると思う。そうすることで、どのくらいの数値を取れば、泉北の生徒は満足するのかという指標が見えると思う。数値の高い先生の授業を公開して、みんなで授業を研究して行えばアンケートの結果を前向きに活用できるのではないかと思う。教科で見ると結果がぼやけて分からなくなってしまう。

（委員）先生方の個人のデータは、学校としてまとめているのでしょうか。

→（学校）データとしてはまとめていますが、個々の先生方には返していない。

- (委員) クラスごとではどうでしょうか。クラスごとに先生の好き嫌いがあるのかもしれない。
- (委員) 数字ははっきりと結果がでる。工夫しなくなると数値は落ちる。数値が落ちたと意識すると、また数値が上がる。意識することが重要である。
- (委員) 大学でも評価を行っており、結果は個人に返却される。個々の項目で高い低いと分かる分析票が返ってくるので、自分の弱い点がわかるようになっている。
- (学校) 全体の中の自分の評価はわかるようにはなっている。
 - (学校) 教員の評価にもこのアンケート結果を反映させていることもあり、全体から見た個々人の評価がわからないようにという指示が教育委員会からある。この指示に基づき結果を公表していることもあり、一部あいまいにしているところもある。
- (委員) 結果の公表の仕方については難しい部分もあるが、上手な先生の授業を見学するのは役に立つのではないかと思う。
- (委員) 教員は個人商店主のおもむきもあるので、教員は真面目であるけれど自己を振り返るのは難しい。授業が上手い先生は、子供が前向きになるような言葉かけなどもあり、生徒からも好かれていると思う。そういう役立つノウハウをみんなで共有して実践していけば、簡単に学校の雰囲気はがらりと変わるのではないかと思う。
- (委員) 体育祭と文化祭の時期を入れ替えることは出来ないでしょうか。3年生の生徒は、夏休みに勉強ではなく文化祭の準備に力をいれてしまう。
- (学校) 検討の余地はあると思う。

【協議会まとめと提言】

- ・よい教え方のノウハウをお互いに共有し合っていくことが大切である。
- ・英語の授業において、学生のレベルに応じた学習内容を与えることが重要である。
- ・生徒は興味を持って、楽しんで授業を受けていた。